

## 一部損壊など、日を追うごとに被害の実態あきらかに 対策本部たちあげ、被災者の要求実現に全力

21日、午後発生した鳥取県中部地震から三日、余震は180回をこえ、不安から、避難所や車中などで避難生活をつづける被災者も少なくありません。また、全壊、半壊家屋にくわえ、一部損壊の被害をうけた家屋が多数で、その数は日を追うごとに増えています。梨の落下や、白壁土蔵群の損壊など地震の影響から温泉地など観光への影響も深刻です。

日本共産党鳥取県委員会は、震災後対策本部をたちあげ、被害の実態把握と行政組織の対応促進、被災者救援・支援のための活動を開始しています。

22日には、大平喜信衆院議員が被災地に入り、倉吉市、湯梨浜町、北栄町の首長などに会い、避難所を訪ね、お見舞いするとともに、寄せられた要望を国に届けることにしています。また、県と被災した1市4町に申し入れも行いました。



## 被災者訪問し、被害の実態と要望を聞き取る

22日・23日には、全県の議員のみなさんに要請し、被災者宅を訪問し、聞き取り調査もおこないました。こうした結果をふまえ、対策本部として、行政に被災者の要望を届けるとともに、要望のつよい一部損壊への支援実現などに全力をあげることにしています。

### 被災者から寄せられた声を紹介します...

- ◆「家の中の水道管が割れて、水道が全く使えない。知り合いの業者に頼んであるので、支援は必要ないが、2週間から10日くらい待ってもらわんといけんと言われている。湯命館（関金町）が無料らしいから今日行ってみる」（76歳・男性）
- ◆「瓦が落ちかけているが業者が手いっぱい雨もりの心配はないからと、待ってくれてといわれている。ブルーシートをもらっているが、屋根にあげられない」（76歳・女性）
- ◆「片付ける気になれない」※「ガレキ片付け、ボランティアが24日設置されると伝えた」
- ◆「離れは屋根落ちた。ブルーシートはまだかけていない。順番まち」
- ◆「裏の家屋の屋根はくずれ、ブルーシートをかけている」「一部損壊の助成をしてほしい」
- ◆「建物にヒビが入った。子どもが明倫小学校のタンクがこわれ、水が出ないといっていた。裏の小路の横小道の陥没あり」※行政に伝えることを話した。